

新医学系指针对应「情報公開文書」改訂フォーム

複数施設研究用

※黒字 定型事項 消さないで下さい。

以下、本文-----

Hereditary polyposis syndromes に対するカプセル小腸内視鏡とダブルバルーン小腸内視鏡検査を用いた小腸病変の検討

1. 研究の対象

家族性大腸腺腫症 (Familial adenomatous polyposis ; FAP) もしくはポイツエガス症候群 (Peutz-Jeghers syndrome ; PJS) と診断された患者

2. 研究目的・方法

FAP患者やPJSを対象にカプセル内視鏡とダブルバルーン小腸内視鏡による小腸観察を行い小腸ポリープの頻度を検討します。研究期間は、承認日の平成26年6月17日～令和4年3月31日の予定です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療歴、内視鏡画像、APC もしくは LKB-1 遺伝子変異の有無、病理組織結果 等

4. 外部への試料・情報の提供

データの提供は、匿名化し特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

共同研究機関：徳島大学大学院医歯薬学研究部消化器内科学分野
石川消化器内科

既存試料・情報の提供のみを行う機関：大阪国際がんセンター

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

様式第 1-5 (2018. 4. 1 版)

研究責任者：大阪国際がんセンター 竹内 洋司

研究代表者：徳島大学大学院医歯薬学研究部消化器内科学分野 高山 哲治

-----以上